

HOPE^{plus}

【市立芦屋病院だより】



開院70周年を迎えて

市立芦屋病院 事業管理者 **佐治 文隆**



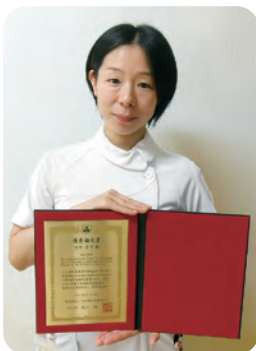
1952年(昭和27年)7月12日、市立芦屋病院は内科、外科、放射線科の3診療科を標榜する、44病床の病院として現在地で開院しました。芦屋市内といえども、当時は住宅地から離れた山上に開設されたのは、肺結核等の感染症患者の入院療養を念頭においたのかも知れません。手塚治虫の「鉄腕アトム」の連載がはじまり、地元の民放「神戸放送」(のちに「ラジオ関西」)が開局したのもこの年でした。

1961年(昭和36年)2月には病院から出火、本館消失という悲劇にも見舞われましたが、市民が蒙った天災といえはなんとと言っても1995年(平成7年)1月の阪神淡路大震災と直近2020年(令和2年)から続く新型コロナウイルス・パンデミックです。震度7の激震に襲われた芦屋病院は、さいわい建物に大きな損害が認められず、多数の負傷者を受け入れ、災害医療に邁進しました。自宅が被災したにもかかわらず、出勤して野戦病院のような状態で診療にあたった職員たちの献身的な活躍は今も語りぐさとなっています。

この伝統精神は今回のコロナ禍でも受け継がれています。いち早く帰国者・接触者外来(発熱外来)を開設しPCR検査を施行、兵庫県の要請に応じてコロナ専用病床を設け、感染リスクの中で防護服に身を固めて罹患患者の看護・入院診療にあたりました。高齢者ワクチン接種を推進するため、地下駐車場を開放して連日多数の市民の集団接種も行いました。「市民病院があってよかった」とのお声かけは、私たち職員にとって何よりの励みになりました。いつ収束するのか分からないコロナ禍ですが、行政や地域医療機関等と連携して、地域住民の健康を守るべく、引き続き感染対応に努めます。

長年の念願であった新病棟完成、外来棟・管理棟改築が終了した2012年(平成24年)から、はや10年が経ちました。開院70周年の節目を迎え、職員一同気持ちを新たに、当院の基本理念「芦屋市の中核病院として、地域社会に貢献します」「患者の意思を尊重し、最善の医療と癒しを提供します」を実践してまいります。皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

優秀論文賞を受賞いたしました!



薬剤科 田中 育子

日本緩和医療薬学雑誌に掲載されました「Are corticosteroids useful for end-stage cancer patients? A Retrospective Chart Review in the Palliative Care Unit」という、緩和ケアにおけるコルチコステロイドの効果と副作用について検討した論文で、優秀論文賞を受賞いたしました。

日本ユネスコ協会連盟から感謝状をいただきました

ユネスコ世界寺子屋運動への日頃の協力に対し、日本ユネスコ協会連盟から感謝状をいただきました。外来棟3階総合受付に「タンス遺産POST」を設置しておりますので、書きそんじハガキ・未使用切手・プリペイドカードがございましたら、こちらに投函していただきますようご協力をよろしくお願いいたします。



市立芦屋病院 70周年の歩み



開院当時の芦屋病院

市立芦屋病院は、昭和27年7月12日に現在のこの場所で開院いたしました。

当時、芦屋市役所より発行の「芦屋市弘報」には「市民の皆様、お待兼ねの市立芦屋病院が愈々竣工しました。」とあり、市民の期待と関心の高さがうかがえます。

病院行き無料バスの運行、開院より約2ヶ月が経った9月3日から5日間に渡っておこなわれた市民向けアンケートなど、市民の皆さんに寄り添った病院運営をおこないたいという想いは70年を経た現在も受け継がれています。

7 平成26年 ホスピタルフェスタ



初代病院長 病院バス



1



2



4



5



8



6 平成26年 JICA視察団



9 令和元年 芦屋病院公開講座



3 平成23年 新病棟建設工事着工

- 1 昭和36年 火災により本館焼失
- 2 平成7年 阪神淡路大震災時リハビリ室での災害医療のようす
- 3 平成23年 新病棟建設工事着工
- 4 平成23年 がんフォーラム
- 5 平成25年 ホスピタルフェスタ(看護師体験)
- 6 平成26年 JICA視察団
- 7 平成26年 ホスピタルフェスタ
- 8 平成30年 マチネコンサート「幸せの黄色いブランドピアノ」とピアニスト金澤佳代子さん
- 9 令和元年 芦屋病院公開講座(芦屋市民センターにて)

外科の紹介

外科 部長 **野呂 浩史** のろ ひろし

今年度より院長を含めた新任医師2名が赴任し、消化器外科、乳腺内分泌外科、呼吸器外科、一般外科の領域において各疾患ごとに、より専門性の高い治療が施行できる体制が整いました。

我々外科医は「手術」が最大の強みです。薬では治療できない疾患の治療や、薬と「手術」と併せて最大の効果を発揮していく治療を積極的に行っています。

地域の皆様に最良の医療をお届けできるように、日々技術の向上と最新の知見の習得に取り組んでいます。

当科では、以下の3つを柱として地域の医療に貢献していきたいと考えています。



後列 左より 佐々木医長・向坂主任医長・田守主任医長・栗原研修医
前列 左より 水谷副病院長・南病院長・野呂部長

1. 癌に対する治療(胃癌、大腸癌、乳癌など)

手術に加えて、化学療法なども含めた集学的な治療を、各個人に合わせた最適な方法で施行できるように努めています。創が小さく痛みの少ない腹腔鏡手術を早くから導入し、患者さんの負担を軽減するとともに、トレーニングを積んだ医師がより精密で安全な手術を行っています。

手術の不安や術後の生活の変化にきめ細かく対応し、地域の皆様のニーズにお応えしていきます。

2. 救急疾患に対する治療

虫垂炎、腹膜炎、胆嚢炎などの急性腹症をはじめとした緊急対応を要する疾患に対しては随時受け入れをしています。外科救急ホットラインにて緊急手術が必要な場合は24時間体制で休日に関わらず対応しています。

3. 各種の専門外来(乳腺疾患、鼠径ヘルニア、肛門疾患)

近年増加している乳腺疾患や、日常比較的良好に遭遇するヘルニア(脱腸)、肛門疾患に対してそれぞれ専門外来を開設しています。3D精密マンモグラフィを導入した乳腺専門外来をはじめとして、最新の機器を使用した迅速な検査と、各担当専門医によるきめ細かい対応が可能です。

① 乳腺専門外来

最新機器の導入による精度の高い乳癌検診により、早期での発見が増加しています。

② ヘルニア専門外来

術後違和感のない腹腔鏡手術から局所麻酔での手術まで短期入院で対応しています。

③ 肛門専門外来

無痛で切らない手術として注射による硬化療法を実施しています。

公開講座

問合せ：芦屋市立公民館 0797-35-0700

時間 14時～15時30分 場所 芦屋市民センター401号室 参加費 1回 200円

日程	内容	講師
7月9日(土)	身近に潜む危険生物 ～ダニ媒介リクチャ感染症～	市立芦屋病院 総合内科 白井 健郎 医師 感染管理認定看護師 今田 慎也 看護師
8月20日(土)	食道・胃の手術を支える栄養の力	市立芦屋病院 外科 野呂 浩史 医師

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止になる可能性があります。市立芦屋病院ホームページをご覧ください。上記の芦屋市立公民館へお問い合わせいただけますようお願いいたします。

市立芦屋病院 無料Wi-Fiサービス開始



令和4年4月1日より、当院を利用される方の利便性向上のため、全棟において無料Wi-Fiサービスをご利用いただけます。詳しくは病院ホームページまたは院内掲示にてご確認ください。

当院ホームページから連携医療機関のホームページへアクセスができます!!



QRコードはこちらです



【連携医療機関URLホームページ】

<http://www.ashiya-hosp.com/gairai/iryoukikan.html>

ねっと版糖尿病教室のお知らせ

閲覧自由

現在集合型糖尿病教室開催は中止しております。

そこで、糖尿病療養について

【ねっと版糖尿病教室】として情報発信をしております。

www.ashiya-hosp.com/kyoushitsu/tounyou.html



QRコードはこちらです

事業管理者

のつぶやき

さ し ふ み たか
市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

聞く力、聞き出す力

物理学者の寺田寅彦は、「眼はいつでも思った時に閉じられるようになっていて、耳は自分で閉じられるようには出来ていない。なぜだろう」と疑問を投げかけています(随筆集「柿の種」)。生物の進化が合目的であるとする、人は常に物音が「聞こえている」状態であることが生存に有利であったからかもしれません。ところで「聞く」と「聴く」はどう違うのでしょうか。後者は意識的に「きく」場合に使い、英語の「listen」のイメージで、前者は「hear」の感じでしょうか。日本語では両者とも「聞く」で通用しています。もっとも私自身は「聞」と「聴」を使い分けるよう心がけています。同様に「見る」についても観劇や映画鑑賞は意図的に「観る」を用いています。

「聞く力」(文春新書)といえば、作家でエッセイストの阿川佐和子のベストセラーで、週刊文春の対談連載「阿川佐和子のこの人に会いたい」をはじめインタビュアーの経験を生かしたノウハウが山積です。「質問は三つ用意する」「観察を生かす」など35のヒントが挙げられています。その阿川さんにインタビューして聞き出した話などをまとめ、毎日新聞編集委員の近藤勝重が「聞き出す力」(幻冬舎)を出版しました。近藤さんは毎日新聞の近藤流健康川柳の選者で、軽妙な選評でも知られますが、阿川さんからは「上手な叱り方」を聞き出し、「借りてきた猫」論を紹介しています。

- [か] 感情的にならない
- [り] 理由を話す
- [て] 手短に
- [き] キャラクターに触れない
- [た] 他人と比べない
- [ね] 根に持たない
- [こ] 個別に叱る

だそうです、阿川さんはマニュアルに頼らず自分で判断することの重要性を強調したそうです。「聞き出す力」には、「相槌を打つこと」「聞き出すのは教えてもらうということ」など、敏腕事件記者時代の秘話も踏まえて解説されています。

本年度アカデミー賞作品賞等を受賞した映画「コーダ あいのうた」のCODAは「Children of Deaf Adult/s」の略で、「両親のひとり以上が聴覚障害を持つ、聴こえる人」を意味します。両親と兄の4人家族でただ一人健聴者の高校生ルビーは、幼い頃から家族の通訳の役目を果たし、家業の漁業も手伝って



ました。学校のクラブ活動で入部した合唱クラブで、顧問の先生がルビーの歌の才能に気づき名門音楽大学への受験を勧めます。しかし娘の歌声が聞こえない両親は家業が続けられなくなると大反対、ルビーの願望と家族愛の葛藤の中ストーリーはクライマックスに進みます。ここからはネタバレですが、ハッピーエンドを迎える心温まる映画であったことをお知らせします。たとえ物理的に音が聞こえない聾者においても、愛が心に歌声を聴かせてくれる感動を得ました。

一方、世の中には聞こえていても聴こうとしない人、いやオッサンたちがいることを暴いたのが、大阪芸術大学准教授で法学者の谷口真由美です。著書『おっさんの掟「大阪のおばちゃん」が見た日本ラグビー協会「失敗の本質」』(小学館新書)で、父が強豪近鉄ラグビー部で活躍した縁で、請われて日本ラグビー協会理事や新リーグ法人準備室長を務めたにもかかわらず、リーグ開幕直前に退任、超保守的なおっさん社会で経験した「部外者に対して聞く耳持たず」の実情を、大阪弁で赤裸々に暴露しています。まさに「聞こえても聴こえず」の好事例と思い、映画「コーダ あいのうた」の家族の反面教師として取り上げました。

(2022.7.1)

事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧ください。

市立芦屋病院 ご案内

●●●●交通案内●●●●

JR 芦屋駅、阪急芦屋川駅から

- タクシー 約7分
- バス 約25分
JR芦屋駅、阪急芦屋川駅のりば2番
- 徒歩 約30分

※ 病院ネットワークバスもご利用ください 無料

市立芦屋病院の理念

病院理念
あい(愛)・しあわせ(幸福)・やさしさ(優しさ)

基本理念
芦屋市の中核病院として 地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し 最善の医療と癒しを提供します

日本医療機能評価機構 認定施設(3rd G: Ver. 2.0 一般病院2)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1
TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822
ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>